



桜並木と
普賢岳

平常時からの防災意識 向上に向けた取り組み

長崎県
『雲仙・普賢岳』



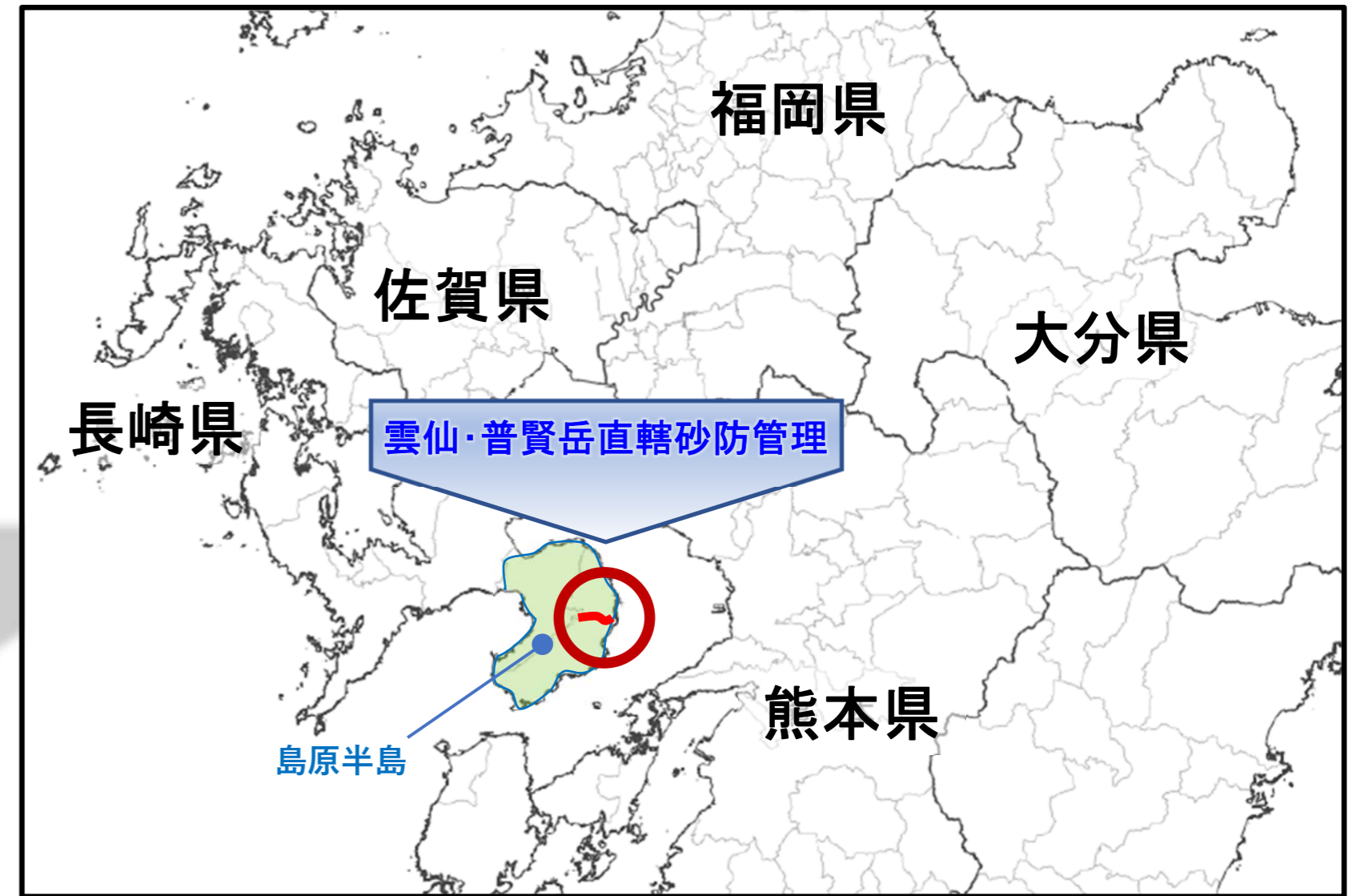
流れ下る火砕流

提供：島原市【平成3年5月撮影】



土石流による被害

提供：NPO法人土砂災害防止広報センター【平成5年9月撮影】



これまでの経緯と取り組み

- ☑ 雲仙・普賢岳は、平成2年11月に噴火活動を再開し、噴火に伴う火砕流や土石流によって甚大な被害が発生しました。
- ☑ 不安定な溶岩ドームがあることから、噴火災害の恐ろしさを語り継ぎ、地域防災力を高める必要があり、毎年、地域主導で「防災講話」「現地視察」「島原防災塾」等の開催により意識向上を行っている。
- ☑ 行政においても「大規模土砂災害合同防災訓練」「平成新山防災視察登山」を行ない、危険性の共通認識を図っている。



- 地域との連携 -

地域の住民（安中地区・深江地区）に対して、**防災講話**や**現地視察**を開催することで、**地域防災力の向上**に寄与しています。また子ども達へは、**島原防災塾**を催して**防災意識の向上**と、平成大噴火の災害記憶や経験を未来へ継承する活動が行われています。



防災講話



現地視察



島原防災塾

POINT

■ 溶岩ドームと共に生きる地域であり、**崩壊の危険性**を認識し**自主避難行動**へ繋げる。

- 大規模土砂災害合同防災訓練 -

雲仙岳火山防災協議会と平時から連携し、有事に備えた**情報共有手段**や**住民の警戒避難対応**等、関係機関が果たすべき役割を確認する**合同防災訓練**を行っています。



POINT

■ 他機関の**動き**を把握することで、それぞれの役割を再確認する。

- 平成新山防災視察登山 -

島原市・九州大学地震火山観測センター主催で年2回実施される、平成新山防災視察登山に参加し、**溶岩ドームの現状**を参加各機関と現地確認しています。



POINT

■ 溶岩ドームを**間近**で確認し、**危険性**の共通認識を防災業務に活かす。